

1 学年 音楽 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	学校祭に向けて（身体表現）	生 徒	窯業科1年生徒8名 農業科1年生徒8名 家庭総合科1年生徒7名
		場 所	音楽室
日 時	令和元年10月16日(水)1校時	指 導 者	T1:石田 T2:成田 石川 佐野

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・テンポやリズム、音程やフレーズなど様々な技術を身に付けながら表現することができる。
- ・仲間の表現を自分なりに評価しながら取り入れ、表現を創意工夫することができる。
- ・主体的・協同的に表現活動に参加し、表現を深めることができる。

(本時の目標)

- ・テーマに沿って表現を工夫、改善していくことができる。
- ・自分達の表現を見て、互いに評価し合いながら表現を高めることができる。

2 生徒について

- ・どの学習内容にも積極的に参加する生徒が多い。
- ・集団活動が苦手な生徒数名は、STが側で見守る等、個別に対応している。
- ・話し合いの活動では、多くの生徒が意見を出すことは得意であるが、まとめることは苦手である。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標：テーマに沿って、表現を考えることができる。

ねらい：テーマに沿って自ら考え、表現を生み出す力を育成する。

(対話的な学び)

目 標：他者の意見を取り入れながら、グループで考えをまとめることができる。

ねらい：課題を解決するために、他者と対話し情報をまとめる力を育成する。

(深い学び)

目 標：振り返って反省し、改善方法を考えることができる。

ねらい：より良い形を現実化するために振り返り、改善を目指す力を育成する。

4 指導計画

第1回 10月 4日：楽曲、テーマの発表。テンポやリズムの確認。【主】

第2回 10月11日：グループでAメロ、Bメロ部分のダンス制作、撮影。【主・対】

第3回 10月16日：ダンスの振り返り、改善。(本時)【対・深】

第4回 10月25日：全体でサビ部分のダンス制作、撮影。【主・対】

※10月18日が雨天だった場合、第4回目は10月18日となる。

※ 授業を振り返って

振り返りの時間が長く、ワークシートを記入することに時間がかかってしまったため、話し合いの時間が確保できるように振り返りの方法に工夫をする必要があった。

教師側で生徒のコミュニケーション能力の実態に応じてグループ分けを行ったが、片方のグループでは改善方法を反映させることが難しく、教師がまとめ役となって授業を進めていく場面が多くなった。

今後、グループ分けを多様に行うことで、その中での主体性や対話性を育むことができるのではないかと感じた。

5 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	- 挨拶 - 前時の確認 - 本時の確認	- 窯業科の日直が挨拶をする。 - 前時に行ったことを振り返る。 - 本時の内容を知る。	- 挨拶の指示。(窯業科日直) - 前時の振り返り。 - 本時の内容を説明する。	- 全体把握(成田、石川) - 個別対応→農業科	
展開 35分	創作活動の振り返り	- グループに分かれる。 - テーマの確認をする。 - 映像を見て、ワークシートに課題を記入する。【深】 - 課題をグループで発表し合う。 - 解決方法をワークシートに記入する。【深】 - 解決方法をグループで発表し合う。 - 話し合いの中で上がった改善方法を基に、考えをまとめ、練習、話し合いを進める。【対】	- 座り方の指示。 - テーマを再度伝える。 →テーマは『楽』。お客様が見て楽しいダンス。 - ワークシートを配布し記入の指示。映像を見せる。 - 発表の指示。 - ワークシートへ記入の指示。 - 発表の指示。 - 話し合いの結果を受けて、練習や話し合いを進めるように言葉掛けする。	(石田・佐野)、(成田・石川)で各グループにつく。 - 動画を見せる。(成田・石川) - ワークシート記入の様子を巡回する。 - 話し合いの進行(石田・佐野) - 書記(成田・石川) →対話に時間を多く使えるように、進行、記入は教師で行う。 - 必要に応じて、言葉掛けする。	- ワークシート - ホワイトボード - ペン - タブレット
整理 5分	- まとめ - 挨拶	- それぞれのグループが改善した点を報告する。 - 窯業科の日直が挨拶をする。	- それぞれのグループに改善したポイントを聞く。 - 挨拶の指示。(窯業科日直)		

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭に向けて（身体表現）	生 徒	窯業科1年生徒8名 農業科1年生徒8名 家庭総合科1年生徒7名
		場 所	音楽室
日 時	令和元年 10 月 16 日(水)1校時	指 導 者	T1:石田 T2:成田 石川 佐野
取り入れた目標	主体的な学び	対話的な学び	深い学び

① 取り入れた目標について

グループで作成したダンスの映像を見ながら視覚的に振り返ることで、どの生徒も考えたダンスの改善点に気が付くことができた。また、考えを記述して表現することが難しい生徒のために、対話の手助けとしてワークシートを用意し、ワークシート内に振り返るポイントを予め記述しておいたが、比較的記述に頼ることなく、生徒全員が振り返ることができたため、視覚的な振り返りが有効であったと感じる。

グループでの話し合いの際には、教師が書記と司会を担当した。生徒が対話に集中することを目的として行ったが、両グループともに、教師の司会を受けながら自分達で話し合いを進めようとする姿が見られた。教師が司会進行する姿が、話し合いの仕方の見本となったのではないかと感じる。発言することが苦手な生徒も、ワークシートの記述を頼りに発言したり、ホワイトボードの記述を見たりしながら、話し合いに参加して改善ポイントを発言していくことができた。

再度行ったダンスの練習では、両グループともに、話し合った結果を受けて意見を出し合うことができた。やや発言者が偏る場面もあったが、発言が苦手な生徒については、うなずきなどで応答することができた。振り返りの発表では、片方のグループでは、テーマに沿ってダンスを改善するために振り付けの順番を変えたり、変更したりしたことを発表することができた。また、片方のグループでも、自分達のダンスが難しすぎることに気付き、手や足の動きを簡単にしたことを発表することができた。

② 授業全体について

対話の手助けのためにワークシートを用意したが、ワークシートを使用しなくても、ビデオを見て視覚的に確認することで殆どの生徒が反省点を上げることができていた。そのため、ワークシートを記述せずに、司会者が口頭で生徒の意見を確認しても、十分であったと感じる。また、ワークシートを記述することに時間がかかってしまう生徒もいたため、記述にかかった時間を活動の時間にまわした方が有効であったように感じる。ビデオを見てから話し合いを開始し、結論を出して練習するまでに約20分から25分程度かかっていた。そのため、練習に時間をかけることができずに、話し合いで出た改善点を十分に改善しきれなかった様子も伺えた。

③ 今後の取り組みについて

学習を重ねるごとに、改善点を考えて実行する能力が向上していると感じる。今回の授業では、主

にダンスの内容の見直しが中心となったが、今後は改善したダンスを練習する中で、動きのバラつきや、身振りや手振りの大きさなどに気付かせていきたい。振り返りの活動では、実際に映像で見て確認の方が分かりやすいことを踏まえて、今後も視聴覚教材を有効に活用していきたい。また、現在はカウントをとりながら練習を行っているが、実際に音楽を流しながらダンスを踊ることで、音楽が持つ拍感に気付かせ、拍感に合わせて踊ることができるようにも指導していきたい。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

【主体的な学び】

- ・MTから話合いの目的が明確に伝えられていたことで、本時の目的がより明確になり、話合いの中で生徒自身が改善点を考えやすくなっており、ほとんどの生徒がワークシートに自分の考えを記入することができていた。そして、ワークシートにもヒントになることが書かれていたため、考えるのが苦手な生徒に対する支援もされていた。
- ・A班とB班に分かれての活動だったが、話合いの中で発言する生徒が限られてしまうことや、他者の意見を受け入れるのが苦手な生徒が目立つ場合は、今回のように進行をMT、STで行うことで話の方向をコントロールする方が、自分から意見を伝えることのできない生徒が話しやすい雰囲気を作りやすいと感じた。教員が適度な支援で話合いをサポートすることで生徒の発言や主体性を引き出すことができていた。

【対話的な学び】

- ・発言を他者に伝わりやすい言葉に変換して、他の生徒に伝えるという教師と生徒の対話的なやり取りによって、生徒の理解が深まっていた。
- ・動画を見せて振り返りをさせることで前回の練習で難しかった点について改善するための考えを導き出す手段になっていたと思った。
- ・練習の場面では、それぞれが案を出しながら改善に向けて練習することができていた。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

- ・今回の1年生の授業を見て、音楽科では1年次から継続的に主体的・対話的な授業に取り組んでいる成果が今の時期の2学年の音楽の授業で見られている。
- ・動きのある授業で、A班とB班の実態差も大きいように感じたが、そう言った中で授業を行う場合はMT、STの役割が明確になっていることが重要であると再確認できた。
- ・ホワイトボードに生徒が見て練習できるように、踊る順番が書かれてあったので、生徒が安心して踊ることができたと思います。
- ・1時間目からの音楽ということで、気持ちが上がりにくいかもしれませんが、先生方の盛り上げ方が大切だと感じました。
- ・足をけがしている生徒の対応についてですが、ダンスの練習では足は動かさなくても上半身は動かすことができると思うので、椅子に座りながらも手の動きだけ一緒にやらせるなどの対応があってもよかったのかと思いました。
- ・生徒が考えたことを視覚的に確認しながら練習できるようにホワイトボードに踊りの順番が書いてあったので、生徒が不安なく練習できる支援の一つになり大変良かったと思います。
- ・全体のまとめとして、授業の最後にMTから生徒に対して、分かりやすい内容で生徒が前向きになれる評価があつてとても良かったと思います。
- ・生徒は前向きに授業に参加していたとは思いますが、普段はよく話していても（話してそうでも）

話し合いになると消極的になっているように見えた生徒が多くいたと感じました。先生方のリードの仕方がもう少し強くあってもよかったと思います。

- 二人の先生方の立場が参観者から見ても明確でバランスがよく、生徒が意見を出しやすい雰囲気づくりができていたように思います。生徒の表情からもそれがよく分かりました。生き生きと活動していたように見えました。

2 学年 体育科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	バスケットボール	生 徒	2年生徒23名
		場 所	体育館
日 時	令和元年12月10日(火)5, 6校時	指 導 者	T1:津村 T2:内田 高山 小林

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・球技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うことができる。
- ・球技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたりしたことを他者に伝えることができる。
- ・球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動することができる。

(本時の目標)

- ・どのような動作をするとシュートまでボールが繋がるのか。仲間の助言を受けて工夫、改善することができる。
- ・安全に留意し、互いに評価し合いながら技能を高めることができる。

2 生徒について

- ・話し合いの場面で、自分の考えを徐々に伝えることができるようになってきている。
- ・分からないことを確認することができるようになってきている。
- ・話し合いでは、発言する人の意見に流されてしまうことがある。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標：テーマに沿って自ら考え、基本的な動作の習得をしようとすることができる。

ねらい：パスやドリブル、シュートなどの基本的な動作を活用してゲームに生かそうとする力を育成する。

(対話的な学び)

目 標：他者の意見を取り入れながら、基本的な動作の工夫しようとすることができる。

ねらい：課題解決のために、他者と対話し工夫して基本的な動作を行ってみようとする力を育成する。

(深い学び)

目 標：基本的な動作を生かして簡易ゲームをしようとしている。

ねらい：周囲への声かけやボールにだけ集中しない動きの改善を目指そうとする力を育成する。

4 指導計画

第1回 12月3日：バスケットボールの歴史や技能のオリエンテーション 【主・対】

第2回 12月10日：基本的な動作を用いた簡易ゲーム①（本時）【深】

第3回 12月17日：基本的な動作を知り、それを生かした簡易ゲーム① 【主・対】

第4回 12月24日：基本的な動作を知り、それを生かした簡易ゲーム② 【主・対】

※ 授業を振り返って

球技は、生徒が好んで行う単元である。個人技能の習得から、試合形式への授業展開とした。試合形式では、仲間と作戦を考える時間を設けたり、教師と対戦することで攻防の工夫をした様子が見られた。また、ワークシートやホワイトボードを活用して、個人やチームの考えを整理してプレーに生かすように促し、安全にも配慮した授業展開を行うことができた。

授業時数があと3時間ほどあると技能やフォーメーションなどが定着でき、さらに深い学びにつながると感じる授業研究だった。

5 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10 分	- 挨拶 - 健康観察 - 前時の振り返り - 本時の確認	- 体育委員が号令をかける。 - 前時に行ったことを振り返る。 - 本時の内容を知る。	- 号令の指示をする。 - 前時の振り返りをする。 - 本時の内容を説明する。	全体把握をして個別対応をする (内田、高山、小林)	- ホワイトボード (小 3 枚) - ペン (赤黒 3 本)
展開 80 分	- 準備運動 - 補強運動 - ハンドリング - シュート - 対人	- ラジオ体操を行う。 - ハンドリングやドリブルの基礎練習を行う。 - チームを確認する。 - チームごとに目標と作戦を確認し、ホワイトボードに記入する。 <u>5 対 5 の簡易ゲームを行う。</u> (4 分)	- 体育委員へ指示をする。 - 各種目のポイントと演示をする。 - 必要に応じて助言する。 - どのようなプレーがバスケットボールに必要なのか。良いプレートはどのようなものか。話し合いのポイントを伝える。 - ゲーム中の注意事項を伝える。 (危険なプレーがあった場合はすぐに試合を中断し、注意	- 生徒とともにラジオ体操や補強運動を行う。 - 必要に応じて助言や演示をする。 - ゲームの時、得点と記録を生徒とともに行う。	- コーン - ビブス - バスケットボール

		・試合がないチームは、良いプレーに注目しながら応援、見学をする。また、役割分担をして計時と得点も行う。 ・<u>見学者からアドバイスをもらったあと、チームで話し合い、1人1回は発言して改善点を考える。</u>（3分程度） ※各チームの改善点は、ホワイトボードに記入して残しておく。 ・<u>再度、簡易ゲームを行い、試合後にどのように改善できたかを話し合う。</u> ・<u>代表者が全体の前で発表する。</u>（チームで意識したことなどに注目した発表をする）。	喚起する） ・試合進行をする。 ・良いプレーを紹介して次時に活用できるよう全体で共有する。	・生徒の安全確認を行う。 ・話し合い活動の際、巡回し、質問を受けたときに対応する。	
整理 10分	・本時のまとめ ・挨拶 ・片付け	・どのような動作がバスケットボールに近いのか改めて考える。 ・体育委員が号令をかける。 ・全員で片付けをする。	・次回は、基本的なシュート練習や対人を行ってから、簡易ゲームをすることを知らせる。	・正しい姿勢で話を聞いているかを確認する。	

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	バスケットボール	生 徒	2年生徒 21 名
		場 所	体育館
日 時	令和元年 12 月 10 日(火)5～6校時	指 導 者	T1:津村 T2:内田 T3:高山 T4:小林
取り入れた目標	主体的な学び 対話的な学び 深い学び		

①取り入れた目標について

主体的な学びについては、「安全に気を付けるために『どのようなプレー』をすると良いか」という目標設定をした。前時の反省を生かし、グループで話し合いをしたのち全体に発表することで「安全」「プレーすること」を自身とグループで確認させた。

対話的な学びについては、「バスケットボールの基本的な動きを身に付ける」を目標とした。基本的な動きはウォーミングアップの中で伝え、試合の前後でどのようにすると良かったのか、ペアを組んでアドバイスができる関係をつくらせた。また、グループで作戦を考えさせる時間も確保して「なぜ」「どのようにすると良いのか」と意見を交流する場面を設定した。今後も素直な気持ちを伝え合い、対話ができる力を養い、コミュニケーション力を高める指導をする。

深い学びについては、グループごとに作戦を考えさせ、自分の役割を明確にさせた。また、映像を活用してバスケットボールの試合を視聴した。ファウルで試合が中断することが多い、なかなか得点に繋がらないなどに気付く効果を狙った。さらに、ワークシートに記入させ、技能の振り返りをさせた。

②授業全体について

高校生になって初めてのバスケットボールだった。3年間を見通して計画的に進めることができるともう1段階上のレベルを目指すことができたのかも知れない。実態に応じた授業展開とともに、3年間を見通したシラバスの作成があってもよいと感じた。技術の向上や、充実感を抱いている姿を見ることができた。危険が少ない動きの中でのゲームをすることで、どの生徒も意欲的に参加し、互いにレベルアップできたので、生徒たちからは「バスケットボールって楽しい!」という言葉が多く聞こえた。

③今後の取り組みについて

S Tとの連携の方法を模索中である。どのように連携すると生徒たちに還元できるのか。今後も検討し実践していく。

ウォーミングアップから接触しない、させないように声を掛けるなど安全面に留意するように配慮しながら授業の展開を組み立て、実践していく。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

【主体的な学び】

- ・ 前回の反省を思い返して、「周りをよく見てプレーをする」との目標を仲間が意見を出し合って立てていた。
- ・ ゲーム前には仲間で話し合いをしながら、本日のゲームの目標を立てていた場面が見られた。

【対話的な学び】

- ・ 班内討議では、キャプテンを中心として統率がとれた話し合いだった。
- ・ また、ゲームでプレーしている生徒と見学をしている生徒をパートナーとして組み合わせて、アドバイスをしたり、自分の改善点を考えたりするなどの活動を取り入れていた。これは、特別支援学校高等部学習指導要領に掲載されている「球技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。」の点を取り入れた活動であると考えることができる。
- ・ 各グループとも、前時の話し合い等を踏まえて、開始前に目標や作戦を考えさせていたのは、対話的な学びにもつながる活動で良いと思いました。

【深い学び】

- ・ 班ごとに考えて、周りの意見を取り入れながら討議することができていた。主体的で対話的な学びに結び付いていた。また、試合が終わった後にすぐに振り返りを行うことで深い学びにつながった。
- ・ 授業最後のグループ反省のとき、代表者に反省したことを発表させていましたが、それを受けて他のグループの生徒はどう思ったか（自分たちと同じだとか、こうしたら自分たちはうまくいったとか）を述べさせると、学年ワンチームとして高め合う「深い学び」になるのではと感じました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

- ・ 前回の反省に「接触プレーをしない＝安全に気をつける」とあったにも関わらず、その点について触れずに話し合いを終わらせていたチームがあった。
- ・ 班内がとてもまとまっており、話し合いや発表がスムーズだった。
- ・ ビデオを視聴するなど分かりやすい説明だった。
- ・ MT や ST の活動が明確になっており、分かりやすい説明・演示になっていた。
- ・ チーム毎に縦列させて説明をする際、身長順（低→高）に並ぶように指示をしたり、ピボット動作の練習では、「ピボットをする時には、肘を張ってボールを保持すること」を指示するとより良かったと思います。
- ・ 指導案には書いていませんでしたが、導入時に VTR を見せて授業への意欲付けや見通しをもたせるようにしたのは良かったと思います。ただ、授業全体の流れから考えると、準備体操の後でも良かったかのではないかと思います。
- ・ 基本動作練習のとき、個に応じた指導が ST を中心としてもっと行われると基礎力向上につながる

のではないのでしょうか。

- ゲーム時、ST を中心に、観戦している生徒に対して「今のプレーのどこが良かった」「今は〇〇の反則だった」「こういうときはこう動くといい」などを考えさせたり、アドバイスしたりする働きかけがあると、より「深い学び」になるのではないかと思います。
- 音に過敏な生徒の対応（配慮）について、指導者間で押さえが必要かと思いました。

3 学年 保健体育科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	バスケットボール	生徒	全科3年生徒 22 名
		場所	体育館
日時	令和元年 12 月 19 日(木)5、6校時	指導者	T1:中市 T2:祐川 T3:海田 T4:村瀬

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・パス、ドリブル、シュートなどの基本的な技能を身に付けることができる。
- ・自己の能力に適した課題を持ち、練習の仕方を工夫することができる
- ・安全や自己の健康に留意して行動することができる。

(本時の目標)

- ・(Aグループ) ピボットターンやフェイントの技術を身に付け、実践的な場面で発揮することができる。
- ・(Bグループ) ドリブルやパスの技術を身に付け、実践的な場面で発揮することができる。

2 生徒について

- ・基礎的な動きの習得を目標とする生徒と、応用的な動きの習得を目標とする生徒が半々在籍している学年である。
- ・1 学年時からバスケットボールの学習に取り組み、基礎練習から試合まで楽しみながら取り組むことができる生徒が大半である。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標：目標とする技術を反復練習や試合で実践することができる。

ねらい：様々な物事に対して見本通りに正しく取り組んだり、目標達成に向けて真摯に取り組んだりする姿勢を養う。

(対話的な学び)

目 標：教師からの助言を受け、技術の改善を図ることができる。

ねらい：自分の考えや取り組み方だけではなく、他者からの助言を受け、即座に改善しようとする姿勢を養う。

(深い学び)

目 標：自分の技術習得の過程を記録及び分析することができる。

ねらい：行動するだけで終わるのではなく、客観的に自分の取り組み方を分析し、改善していく力を養う。

4 指導計画

第1回 12月5日 : 試合で活用できる技術の学習①【主・対・深】

第2回 12月12日 : 試合で活用できる技術の学習②【主・対・深】

第3回 12月19日 : 試合で活用できる技術の学習③（本時）【主・対・深】

※ 授業を振り返って

●主体的な学び

「試合で使うための技術を身に付ける」というテーマを1回目の授業から生徒に伝えたことにより、ただ教師の指示を聞いて行うだけではなく、「身に付けたい」「うまくなりたい」「この技術を使いたい」という生徒の姿勢が見えた。また習熟度別に授業を展開したことで、それぞれが向上心をもって取り組んだり、同じ課題をもつ生徒を意識して授業に参加したりすることができた。生徒たちからは「楽しかった」という言葉が多く発せられていた。

●対話的な学び

「教師と対話をし、助言を聞いて実行すること」を目標とした。すぐに実践し、改善が見られた場合には称賛をしたことで、生徒も達成感を味わうことができたと考える。今後も素直に教師と対話ができる力を養い、コミュニケーション力を高める指導をしていきたい。

●深い学び

ワークシートで自分の技術を振り返りしたことで、自分の現在の習熟度などを確認することができた。また、撮影した試合の映像視聴では、自分の動きを客観的に見たことで「あの技術を使えていた」「学んだ技術を一度も使えていなかったの、次の試合では使いたい」という言葉が多く発せられていた。今後も自分の動きなどを客観的に見て、最善の方法を見いだせる思考力や判断力を養っていきたい。

●授業全体について

3年生ということもあり、自ら進んで動いたり、全体の様子を見ながら活動したりするなど、全体の一員としての自覚を感じた。また1学年時から取り組んでいるバスケットボールだが、今までの積み重ねにより、技術の向上や、充実感を抱いている姿を見ることができた。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 15分	・挨拶 ・本時の確認 ・体操 ・ランニング (3分間) ・ボールを使った準備運動	・日直が挨拶をする。 ・本時の流れや目標を教師の説明をもとに確認する。 ・体操を行う。 ・ランニングをする。 ・ボール回しをする。 (頭、胴、足)	・日直に指示を出す。 ・座らせたあと、前回の内容を確認させる。 ・体育委員に体操の指示を出す。 ・正確に体操ができているか確認する。 ・ランニングの指示を出す。 ・手本を見せる。	・気を付けの姿勢ができているか確認する。 ・正確に体操ができているか確認する。 ・危険がなく、安全に走っているか確認する。 ・MTの手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。	・ホワイトボード ・体操CD ・カラーコーン
展開 70分	・ドリブル	・その場でコントロールドリブルをする。(左右) ・4人1列になり、ドリブルをする。(歩きながらや走りながら、両	・手本を見せる。 ・コントロールドリブルの試合での有効性を説明する。 ・手本を見せる。	・MTの手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。 ・MTの手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。	・ボール

	・パス ・グループ別活動（A：発展グループ、B：基礎グループ） (13：40～)	手交互になど) ・2人1組でパス練習をする。 (チェストパス、オーバーヘッドパス、サイドフックパス) ○Aグループ<中市、祐川> (小柳、高田、高橋、<u>森本</u>、池野、成田、松木、町屋、渡邊秀、小林) ・2人1組でディフェンスと密着しているときのピボットターン <2人1組 15 秒間×2> ・ディフェンスと密着しているときのピボットターン⇒セットシュート <T 2 相手に3本> ・ステップによるフェイント（ピボットターンで相手を左右に揺さぶり、抜く）⇒セットシュート <T 2 相手に1人3本> ・シュートのフェイント（シュートのふりをして相手の腰を浮かせ、抜く）⇒セットシュート	・手本を見せる。 ・それぞれのパスの試合での有効性を説明する。 ・手本を見せる。 ・それぞれのパスの試合での有効性を説明する。 ・手本を見せる。 ・試合での有効性を説明する。 ・手本を見せる。 ・試合での有効性を説明する。 ・手本を見せる。 ・試合での有効性を説明する。	・MTの手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。 ・MTの手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。 ・MTの手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。 ・MTの手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。	・ストップウォッチ
--	---	--	--	--	---

		<M2相手に1人3本> ・ <u>1 o n 1</u> (学んだ技術を意識して行う) <1人2～3試合程度ずつ> (14:15 目途) ・ <u>ワークシートを活用し、1 o n 1の振り返りを行う。</u> ○Bグループ<海田、村瀬> (鮫名、木口、<u>吉田</u>、金子、扇谷、長谷川、四方、國仙、末廣、矢野、渡邊あ) ・ スピードドリブル (タイム測定) <2レーン、1人2本> ・ スピードドリブル⇒チェストパス <チームで交互に行う、全員×2>	・ 学んだ技術を意識して試合をするよう指示を出す。 ・ これまでに学んだ技術を1 o n 1で発揮できたか、また改善点などを振り返るよう指示する。 ・ 手本を見せる。 ・ 試合での有効性を説明する。 ・ 手本を見せる。 ・ 試合での有効性を説明する。	・ MTの手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。 ・ MTの手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。 ・ MTの手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。	・ ワークシート ・ カラーコーン
--	--	---	---	--	---------------------------------

	・ フリースローライン付近でパスを受け取り⇒セットシュート ＜ 1 人 5 本 × 2 ＞ ・ <u>ポートボールの試合</u> ＜ 5 分間、 2 チーム ＞ (14 : 15 目途) ・ <u>ワークシートを活用し、ポートボールの振り返りをする。</u> ・ <u>グループごとで取り組んできた技術を意識した試合をする。</u> (1 試合 4 分 : 計 16 分) ① A グループ内での試合 ② B グループ内での試合 (<u>試合中 A グループの生徒は、撮影された試合をテレビで確認し、次の試合に向けて改善点を探る</u>) ③ A グループ内での試合 (<u>試合中 B グループの生徒は、撮影された試合をテレビで確認し、次の試合に向けて改善点を探る</u>) ④ B グループ内での試合	・ 手本を見せる。 ・ 試合での有効性を説明する。 ・ ルールを確認させる。 (ボールを受け取った人は必ず 2 歩ドリブルをする。シュート時はドリブルはなしで良い。 ・ これまでに学んだ技術をポートボールで発揮できたかななどを振り返るよう指示する。 ・ 主審として試合を取り仕切り、指示を出す。 ・ A グループは本単元で取り組んだピボットターンやフェイントを 1 回以上、試合で行うことを課題とするよう指示を出す。 ・ B グループはボールを持ったらドリブルを必ず 3 バウンド以上試合で行うよう指示を出す。 シュート時はドリブルをしなくてもよい。 ・ 試合終了後は試合映像を見て、改善点を確認するように指示を	・ MT の手本通りにできているか確認し、必要に応じて助言する。 ・ T 3 が線審を行い、T 2 及び T 4 は電子タブレットで試合を撮影し、撮影後は T V につないで生徒に視聴させる。	・ ワークシート
--	---	--	--	-----------------

		(14 : 35 目途)	する。		
整理 5分	・ 片付け ・ 整理体操 ・ 次回予告 ・ 挨拶	・ 片付けをする。 ・ 整理体操をする。 ・ 次回の授業内容を知る。 ・ 日直が挨拶をする。	・ 全員で片付けをするよう指示を出す。 ・ 体育委員に指示を出す。 ・ 正確に体操ができているか確認する。 ・ 次回はスキーを行うことや、必要な道具について知る。 ・ 日直に指示を出す。	・ 安全に片付けができているか確認する。 ・ 正確に体操ができているか確認する。 ・ 気を付けの姿勢ができているか確認する。	

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	バスケットボール	生 徒	全学科3年生 14 名
		場 所	体育館
日 時	令和元年 12 月 19 日(木) 5～6校時	指 導 者	T1:中市 T2:祐川 T3:海田 T4 村瀬
取り入れた目標	主体的な学び 対話的な学び 深い学び		

①取り入れた目標について

主体的な学び

「試合で使うための技術を身に付ける」というテーマを1回目の授業から生徒に伝えたことにより、ただ教師の指示を聞いて行うだけではなく、「身に付けたい」「うまくなりたい」「この技術を使いたい」という生徒の姿勢が見えた。また習熟度別に授業を展開したことで、それぞれが向上心をもって取り組んだり、同じ課題をもつ生徒を意識して授業に参加したりすることができた。生徒たちからは「楽しかった」という言葉が多く発せられていた。

対話的な学び

「教師と対話をし、助言を聞いて実行すること」を目標とした。すぐに実践し、改善が見られた場合には称賛をしたことで、生徒も達成感を味わうことができたと考える。今後も素直に教師と対話ができる力を養い、コミュニケーション力を高める指導をしていきたい。

深い学び

ワークシートで自分の技術を振り返りしたことで、自分の現在の習熟度などを確認することができた。また、撮影した試合の映像視聴では、自分の動きを客観的に見たことで「あの技術を使えていた」「学んだ技術を一度も使えていなかったの、次の試合では使いたい」という言葉が多く発せられていた。今後も自分の動きなどを客観的に見て、最善の方法を見いだせる思考力や判断力を養っていきたい。

②授業全体について

3年生ということもあり、自ら進んで動いたり、全体の様子を見ながら活動したりするなど、全体の一員としての自覚を感じた。また1学年時から取り組んでいるバスケットボールだが、これまでの積み重ねにより、技術の向上や、充実感を抱いている姿を見ることができた。

③今後の取り組みについて

今後も当該学年の実態にもよるが、習熟度別の取り組みを行い、生徒一人一人に合った課題を出し、「達成したい」「もう少しでできそう」などの主体性を育む授業展開をしていきたい。

また、体育の授業では映像を効果的に使用することで、生徒が自分の長所と短所の理解を深め、「もっとうまくなりたい」「楽しく運動をしたい」などの向上心を抱いていけるような指導をしていきたい。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	バスケットボール	生徒	全学科3年生徒 22 名
		場 所	体育館
日 時	令和元年 12 月 19 日(木)5,6 校時	指 導 者	T1:中市 T2:祐川 T3:海田 T4:村瀬
取り入れた目標	主体的な学び 対話的な学び 深い学び		

① 取り入れた目標について

「主体的な学び」について、全体への指示に対し、指示を確実に聞いていないことや理解までに時間がかかることあるため、授業前半は意図的に話者を注視し指示を理解しようとする姿勢を作ることを心掛けた。理解が難しい生徒へは、かみ砕いて伝え、最終的に生徒自身の言葉で伝え理解度を確認することを心掛けた。指示に対する理解度が増すことが技術面で主体的に工夫することに繋がっていた。

「深い学び」については、試合の映像を振り返りに活用する場面があったのだが、映像を見ながら生徒の意見を引き出し、次の試合でどのように還元するかについて話を深めるよう心掛けた。結果、2 試合目に授業で練習した技術を活用した場面が随所に見られた。

② 授業全体について

学習前にテーマの設定、確認が徹底されており、生徒にとって焦点化しやすくテーマに沿った取り組みがしやすくなっていた。能力別に分けることで、さらに内容が精査されているため、生徒は主体的に活動がしやすく、意欲をもたせやすかった。また、体操において生徒自らが補強運動を行ったのは、これまでの積み重ねが表現されていると感じた。

体育において、安全面の配慮が不可欠であることから、手でボールを扱う活動は特に時計を外す、爪を切るなどの確認が必要と考える。

説明時、ボールをついたりドリブルをしたりしながら行っている場面があったが、生徒にとっては聞こえにくい場面があったと考える。説明する場面と実演する場面を流れの中ではなくメリハリを付けて行うのが良い。結果、生徒達も説明が終わる前に活動を開始する場面が随所に見られたことから大人側が意識していく必要があると感じた。

③ 今後の取り組みについて

バスケットボールは、レクや球技大会などで成果を発揮する場面がなくなったことから、身に付けた技術をさらに発揮する場面として、体育の授業内で設定していくことが大切と考える。対教員との試合などが設定しやすいと考える。

3 学年になると、過去 2 年間授業の中でバスケットボールを行っていることから、ゲームを行ってから振り返り、自分の課題を見つけ、個々に技術練習をするといった流れがあっても良いと考える。個としての課題、チームとしての課題、学年としての課題など、発展させやすいことから、思考・判断・表現の評価もしやすくなると考える。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価
【主体的な学び】 ・生徒のレベルに合わせたグループ分けがされており、生徒も自分のレベルに合わせて活動に参加できていた。 ・B チームの試合では、ドリブルを必ずしてからパスしようと果敢に挑戦していた。A チームはパスをつなぎ、シュートまでスムーズに動いていた。 【対話的な学び】 ・パスが出来ない味方からボールをもらいにいくため、声をお互いに掛け合ってボールを受け取るようにしていた。 【深い学び】 ・B チームは動画を見たが、動画から自分の動きを分析することは難しい様子だった。
授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）
・本時の目標については、実践に使える技術を指導し、結果生徒がドリブルやパス、うまい生徒はフェイントを実際の試合に使うことが出来ていたように感じた。 ・グループごとに適切な指導が進められていた。 ・パスの練習時、パスの実践的感觉を習得させるために二人組の間に教員が立った。 ・B チームは、ポートボール形式をとり、ドリブルとパスの実践的感觉を習得させようとしていた。 ・動画を撮影して、テレビに映してゲームを客観的に見せようとした。 ・1 回、2 回目を欠席した生徒に、試合前に接触プレイを避けるように指導が必要だったかもしれない。（2 回目の授業で接触プレイはファウルを取るようになっていました。関連して、ファウルを審判が取る事も要所要所で必要だったと感じます。取らなかったために危険に発展する可能性がある接触プレイが数回あったと思いました。） ・自由に発言させることで互いの意見を聞き入れやすかったと思います。ふだんの信頼関係が見え雰囲気の良い生かされた授業でした。（教師と生徒、生徒同士） ・STが熱心に周囲の活動をサポートしていて良かったと思います。時計を外す、ボールを片付ける、ステージ側の網を引く、カーテンを引く、タブレット撮影するなど学習環境をサポートしていました。 ・タブレットの活用が大変良かった。私の授業でも取り入れたいのですが個人持ちがありません。学校で購入していただけたらありがたいです。 ・練習で身に付けた技能を試合で生かすには、もう少し時数があると良かったのではないかと思います。今日の様子では、バスケットらしいゲームになり、パスが繋がり、ドリブルの技能を獲得したところで終えてしまうのはもったいないレベルに感じました。ただ、習熟度別でグループ分けをし

て、条件を整えて練習から試合へと自然につないだ展開と工夫がなされていて良かったです。私も今後の参考にします。

- 爆弾ゲームにしないためにも接触の瞬間には、確実にファウルを取ってあげると良いのではないかと感じました。
- バスケットの安全面の課題にメガネをかけている生徒の配慮について。外すと見えないのであれば、スポーツ部のゴーグルを借りた方が良いでしょう。私も悩みどころです。

1 学年 美術 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	静物デッサン	生 徒	1年 生徒 23 名
		場 所	美術室
日 時	令和元年 12 月 17 日(火) 5.6校時	指 導 者	T1:福井 T2: 成田 T3: 大槻

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・対象を細かく観察出来る。
- ・鉛筆デッサンの基本技術を理解する。

(本時の目標)

- ・作品全体の鉛筆の明度をコントロールし、立体感を出すことができる。
- ・細かい部分の描写に挑戦できる。
- ・他作品を鑑賞して「優れた点」を発見し、評価することができる。

2 生徒について

- ・完成形の見通しをもって作業する事が苦手だが、動画や作品例を見てイメージを一時的にもつことができる。
- ・鉛筆の筆圧の強弱を意識することが苦手だが、指示に従い作業することができる。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標： 光源と陰影を意識してデッサンすることができる。

ねらい： 光がどの方向から来て、影がどのように出来ているか観察する視点を身に付ける。

(対話的な学び)

目 標： 他生徒の作品を観て、どの点が優れているのか発表することができる。

ねらい： 作品の良さを見付け出そうとすることで、鑑賞する観点を身に付ける。

(深い学び)

目 標： 鉛筆の濃淡を意識し、立体感を出すことができる。

ねらい： 鉛筆の性質と筆圧を考えながら対象物を表現する。

4 指導計画

第1回 12月 3日： デッサンの技術確認、画面構成決定【主】

第2回 12月10日： 鉛筆を用いてデッサン【主・深】

第3回 12月17日： 鉛筆を用いてデッサン・鑑賞（本時）【主・対・深】

第4回 12月24日： 鉛筆を用いてデッサン・鑑賞【主・対・深】

※ 授業を振り返って

生徒の実態の差があり、テクニックを必要とする今回のような授業では、複数回にわたって同じ内容の指導をしていく必要があると感じた。映像だけでは完成形のイメージをもつことが難しく、教員が事前に見本を提示することが重要と改めて感じた。見本が手元にあると、線の描き方や立体の見方をより具体的に示し、指導することが可能である。

5 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10 分	・ 挨拶	・ 日直が挨拶する	・ 日直に指示を出す。	・ 「気を付け」ができているか、机上が整理されているかを確認する。	鉛筆、画用紙、写真
	・ 道具の準備	・ 鉛筆、画用紙、撮影した写真を準備する。	・ 道具準備を指示し、鉛筆を持っていない生徒には鉛筆を貸し出す。	・ 安全面に気を付けて移動するように言葉掛けをする。	
	・ 前回の授業で整理した情報を確認する。	・ MTの方向を見て話を聞く。 【ポイント】 ・ <u>光が当たる方向確認</u> ・ <u>鉛筆の使い方</u>	・ 黒板を使用し、描き方を説明する。	・ 生徒の様子を観察する。	
展開 65 分	・ 制作	・ 写真を使用してデッサンを開始。	・ 机間巡視し、デッサンの指導をする。	・ 机間巡視をし、質問されたときには、答える。 ・ 鉛筆が折れたら鉛筆削りで研ぐ。 ・ 生徒の様子を観察する。	
鑑賞 25 分	・ 鑑賞・評価	・ <u>作品の良いポイントを挙手して発表する。</u>	・ 生徒の作品を提示し、作品の良い点を挙手させて述べさせる。最後にそれぞれの寸評を述べる。	・ 生徒の様子観察をする。	
整理 5 分	・ 挨拶	・ 後片付け、掃除をする。 ・ 日直が挨拶をする。	・ 後片付けを指示する。 ・ 日直に指示を出す。	・ 「気を付け」をしているか確認。	

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	静物デッサン	生 徒	1 年生徒 23 名
		場 所	美術室
日 時	令和元年 12 月 17 日(火)5～6 校時	指 導 者	T1:福井 T2:大槻 T3:成田
取り入れた目標	主体的な学び 対話的な学び 深い学び		

① 取り入れた目標について

授業の開始時に、デッサンの技術の要点を 3 段階にまとめて全体へ周知した。単元開始時から 2 回同じ内容を伝えていたので、3 回目の本時で改めて説明を聞くことにより作業の見通しをもつ生徒が増えたと考えられる。

黒板へ大まかな要点を書き出し、鉛筆の持ち方と線の描きこみ方法や 2 分のデッサン技術に関する動画を鑑賞し、作業の段取りと方向性を知ることができた。また、教員自身が制作した静物デッサンの例を見せ、どうやって描き込んでいくべきかを提示した。これらの指導によって、生徒自身が作業をどう進めるのかイメージをもたせた。

② 授業全体について

机間支援していくことにより、生徒が困っている点について個々に聞き取りをし、そこからどうすべきかを各々に伝えていった。筆圧のコントロールが出来ずに画面を真黒くしてしまう生徒も数名いたが、消しゴムなどによって鉛筆の濃淡を補正していった。描き直したいという生徒には新たな紙を用意して取り組みをさせた。

数人の作品をピックアップして鑑賞する時間を設けた際、他の生徒の作品に対して、客観的な感想を述べることができた。また、自分の作品についても重点的に取り組みを発表することができたため鑑賞する観点が身に付きつつあると感じた。

③ 今後の取り組みについて

生徒の実態の差があり、テクニックを必要とする今回のような授業では、複数回にわたって同じ内容の指導をしていく必要があると感じた。映像だけでは完成形のイメージをもつことが難しく、教員が事前に見本を提示することが重要と改めて感じた。見本が手元にあると、線の描き方や立体の見方をより具体的に示し、指導することが可能である。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

【主体的な学び】

- ・陰影を意識して、どの生徒も一生懸命に鉛筆を動かしていたが、具体的にどのような技術でデッサンしたらよいか戸惑う生徒が見られた。
- ・細かい描写は難しいと感じる生徒も多い中、MTの作品を直に見ることで主体的な創作意欲をかき立てられている生徒が多数いた。

【対話的な学び】

- ・他生徒の作品を見て、良い点を発表することができた生徒がいた。グループ内で鑑賞して発表し合ってから全体へ、などの流れにすると全員が対話できて更に良い。
- ・自分の作品の工夫した箇所の紹介では描写を細かく説明する生徒もあり、自分がどのような思いでデッサンを描いたのか、自分の取り組みを客観的にとらえ、自分との対話がなされていたと感じた。

【深い学び】

- ・陰影の部分を濃く描くことができていた。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

- ・本時の目標について
1つ目「作品全体の～、立体感を出すことができる」については、「出そうとしてみる」ことはできていた。2つ目はどの生徒も挑戦していたので達成していた。3つ目は評価を発表することができた生徒がいた。
- ・本時の目標「細かい部分の描写…」に関わって、生徒が横のストロークを直線的にとっていたが、曲線的な描き方の指導があれば、曲線や凸凹の描きがうまく表現できたのではないかな。
- ・本時の目標「他作品を鑑賞して…」に関わって、生徒同士のポジティブな言葉掛けが多く聞かれていた。
- ・描画対象と光源の位置について、教室内にライティングを1か所設けて実際に当てて見せた方が分かりやすいのではないかな。
加えて、画像を印刷したものではなく、実物をデッサンしてみてもよいのではないかな。生徒の視線の移動は少なくてもよいのだが。
- ・ほとんどの生徒が意欲的に取り組み、指示に従って作業していた。
- ・動画を用いて、どのように完成していくかを見せたところがわかりやすかった。完成品もあったためイメージができ良かった。（できれば各野菜の完成品があると良い。）
- ・最終的な仕上がりのイメージを最初に映像で確認し、デッサンの細かい描写について説明をすることは生徒にわかりやすかったと思う。
- ・一人一人のアドバイスが具体的でわかりやすかった。（鉛筆の使い方など）
- ・立体感を出したいが、どのようにしたらよいのか分からない生徒が多く見られた。黒板に手順はあったので、できればもっと細かく部分練習させてからデッサンするのもよいかもしれない。例えば、鉛筆を寝かせて薄く描く練習、グラデーションにする練習、ハイライトを入れる練習など。
- ・「野菜」はデッサンの対象として、難しいように感じたのですが、どうでしょうか。（←違ったらすみません。何が簡単な物なのかはわかりませんが・・・）最初から生徒に物を選ばせるのではなく、まずは上記のような練習が生かせるような対象を準備し、それができたら次に進む、というよ

うに、実態に応じたスモールステップにして、苦手な生徒でも「できた」と感じさせる点があると
更なる意欲につながるかと思います。